

○高等植物分布資料 (22) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (22)

○モエジマシダ *Pteris vittata* L. は熱帯から亜熱帯にかけて広く分布しているシダで、日本では九州南部に少々と琉球にはえている。田川博士の図鑑には別府市付近や和歌山県白浜町にもあると書かれているが、わが国では珍らしいシダの一つである。ところが一昨年の秋、愛媛県新居浜市の石川早雄氏は同市にこのシダが数百株自生しているのを発見された。その後ますます繁茂して数千株といってもよいほどだということだったので、私はこの夏現地を訪れてみた。なるほどすごい群落で、モエジマシダばかりの所もあればヤクシソウやススキの混じった所もあるが、1 m もある大きなものから、前葉体のまだくっついていて若い株まで、まことに適所を得たように盛んにはえている。場所は瀬戸内海の風の吹きさらすただっ広い埋立地で、別子銅山の鉱石を浮遊選鉱法で選別した残留物を捨てることによって造成された土地である。土は砂のような手ざわりで細かい。どうしてこの地にモエジマシダが飛んできたか、またどうしてこんなにふえたかということは非常に興味のある問題である。幸い発見者の石川氏が熱心に観察を続け生態学的な調査をやっておられるので、近いうちにおもしろい結果が発表されることと期待している。(伊藤 洋)

○チャボイ *Eleocharis parvura* (Roem. & Schultes.) Link は北九州の筑前国糸嶋郡今津村で見つかったのが東亜地方での初めての記録で、初島住彦博士の採集によるものである。続いて中島一男氏が対馬国下県郡古茂田で見つけられたが、いずれも戦前のことで、その後しばらくそれ以外の産地を知らなかった。所が昨夏、伊延敏行氏は徳島市末広町で採集せられた。これは第三の産地で、同時に四国では初めてである。Clapham et al. の英国植物誌によるとあちらでは海岸の湿った砂勝ちの地にはえ、しかも限られた所のみ知られているようである。日本でもその産地は海岸の近くである。Hultén のカムチャッカ植物誌によると欧州アメリカ、西アジアからカシミア、チベットに至り、またシベリアに少数カ所、カムチャッカに一カ所が知られている。前記の Clapham et al. によると南北アフリカにも分布するらしい。チャボイの外観はマツバイによく似ているが全体やや太く軟かく、淡緑色で、この標本では見られないが根本に糸の様なつるが出る。もちろん柱基と癒合した平滑なそう果を見ればまちがうことはない。(大井次三郎)

○エゾムカシヨモギ *Erigeron acris* L. subsp. *kamtschaticus* Hara は従来北海道と本州中部の高山及び山地に限られ、本州北部からは知られていない。1962年7月、陸中国手形山(1340 m)で筆者は同行の高橋政利君と共に同山の頂上付近の険しい露岩上に於て紛うかたなき開花中の本種を採集した。この産地は北海道と本州中部山岳間の分布の連絡となる点で注目に値するものと思われる。(望月陸夫, 岩手大学農学部)